

チッソ本社に機動隊

座込みの全員を排除

補償交渉メド立たず

東京・丸の内チッソ本社での水俣病被害者・家族とチッソの補償交渉は、九日からのチッソの「だんまり戦略」にじびれをきたした被害側が十日昼、二日間泊まり込んでいた応接室の反対側にある格闘場のドアを破って、補償問題の当面の担当者である土谷総務部長に面会を求めるといふ強硬手段に出た。しかし土谷部長には会えず、いっぽう被害側を支援して本社廊下三方所にすわり込み封鎖をしていた熊本、東京の水俣病を告発する会員約百二十人も、同日午後三時四十三分警備隊に強制排除された。このあと被害者・家族五人は、チッソの具体的回答を求めて社長室前でハンストにはいった。

泣きくずれる患者 社長室前でハンスト

水俣病新認定患者とチッソの補償交渉が続いているが、患者家族の川原通郎に会い「四十八時間も私に交渉を呼びかけても答えてはくれぬ交渉をめぐる話し合いは固着状一本舞矢さん」さらには「十日正午から」ちを置き去りにしたまま、いくら「ない。チッソは物理的に閉じ込め



チッソ本社で廊下から強制排除される「水俣病を告発する会」会員（手前）

ラス)を破り、同課内にはいり込んだ。患者・家族代表四人もこれに続いた。

しかし同課内にはチッソ社員約二十人がいただけで、土谷部長の姿は見えなかった。

同課奥には社長室などの役員室が並んでおり、社長室にけ力半がかかっていた。ここに同部長がいるとみて川本さんらは面会を呼びかけたが応答はなく、川本さんの要求でチッソ社員が呼びかけても答えはなかった。このため、川本さんら患者・家族五人は社長室前にすわり込んだ。

一方、告発する会のすわり込みに対して、会社側は十日前、丸の内署に排除を依頼し、午後一時す

きからはチッソ社員たちが「封鎖を解いて就職させてください」と何度も呼びかけた。しかし、この呼びかけにも、警察側の数度の警告にも応じなかったため、同署は同三時四十三分から制服の機動隊と二個中隊を動員してすわり込みの一人々々をゴボウ抜き、同四時半ごろ排除を終わらせた。この騒ぎで告発する会側は三人が威力業務妨害、暴行傷害などの疑いで逮捕された。

すわり込みの一部排除が終わったところで、丸の内署員の一人が社長室前にすわり込んだ川本さんらに「告発する会のすわり込みを自主的に解くよう説得してほしい」と頼んだ。これに対し川本さ

んらは「私たちの気持ちがあなただけにわかるのか。このままでは水俣に帰れない。これまで交渉できたのはあの人たちのお陰だ。それをいままら……」と声を張り上げ、泣きくずれた。署員はことばもなくその場を去った。

これら患者・家族に終始つきそっていた作家の石牟礼道子さんは「チッソのやり口にはもういこうとばかりありません。警察もそうです。患者のために警察は何もしない。チッソを問べるべきです。廊下のすわり込みが一般の通行の迷惑になるといふけれど、患者が一般人だったときの迷惑はいったいどうしてくれるのか。チッソはこの二日、日常業務には困っ

たでしょうが、患者は一生涯を女メにされているのです。それだけでなく水俣病は親、子、孫までかわっていくのです。それと比べるとチッソの迷惑など比較になりません」とくちびるをかみしめていた。

排除が終わったあと中村チッソ庶務部長は「土谷部長は社長室にいる。最高責任者として話し合いを求められたので、面会に応じなかったようだ。患者さんたちが落ち着かれた段階で、具体的回答でなく、今後をどうするかの話し合いなら応じる考えた。社長は血圧

高進症などで三週間の加療が必要で、十五日の水俣行きは無理かもしれない」と語った。

川本さんら患者・家族は石牟礼道子さんから告発する会の会員約十人に付き添われ、午後九時半現在、土谷部長のいる社長室のドアに「チッソの具体的な誠意を求めて、ハンストにはいる」という張り紙をして、ドアの前にすわり込んでいる。なお排除された告発する会員たちは午後五時二十分すぎ「チッソ、フンサイ」のシュプレヒコールを残しながらチッソ本社を去っていった。(東京支社)